

【公共】

～ClassPad.net の同時編集機能・リンクふせんを活用する～

マイクロクレジットの仕組みと、その詳細を理解する探究授業
貧困撲滅や格差解消などの国際的課題について、自主的に考える。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：金融についての基礎知識をもとに、マイクロクレジット(ファイナンス)の概要を
押さえ、貧困撲滅と格差解消に向けた解決策のあり方について考えさせる。
生徒向けの目標：貧困撲滅や格差解消に向けた国際的な取り組みや背景について詳しく理解する。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・生徒の理解促進：重要語句や内容の閲覧が容易で、思考力を養う時間をより多く確保することができる。
- ・生徒の思考力アップ：さまざまな資料の参照や集約、共有が容易になることによって視覚的にイメージを膨らませ、紙面のノート以上の情報量をもとに学習を進めることができる。
- ・個別最適学習の促進：各人の所有画面上でデータや資料などを、より詳しく確認、考察できる機会が提供されることで、その後の個別学習への応用が期待される。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【本日の授業の目標】

- マイクロクレジット(ファイナンス)の概要について理解する
- マイクロクレジットに関わる、個人での探究学習
→ 今回の授業では途中経過の発表程度までで、次回授業時に本格的な発表ができるよう進めていきましょう。

概要の説明

マイクロクレジット（ファイナンス）について簡単に紹介し、これらについて深掘りする授業を行うことを伝達する。

step2

【テーマに関する確認】

- マイクロクレジット（ファイナンス）
貧困状態にあり、一般の銀行から資金を借りることができない人々に少額（マイクロ）の資金を貸し付け（クレジット）、自立のための後押しをする金融サービス。
資金を借りた側は、資金を元手に起業したり就労したりするなど、貧困状態から脱却して自立することを目指す。
→ 資金を生活費に充てるような、その場しのぎの使い方ではない。

テーマについての簡単な理解

今回のテーマであるマイクロクレジット（ファイナンス）について、あらためてその仕組みを詳しく解説する。

テキストふせんにより定義の説明をするとともに、仕組みを図示したものをファイルふせんにして提示する。

step3

【マイクロクレジットに関する疑問】

- 現段階で、マイクロクレジットについて疑問に思うことを列挙しましょう。
- ・貸付のシステムを考えたとき、
・なぜあんなに簡単に貸付できるのか？
・どんな人が利用しているのか？
・どんな人から利用しているのか？

疑問の書き出し

マイクロクレジット（ファイナンス）に関して、まだ説明されていないことで疑問に思うことを考えつく限り挙げさせ、その中で最も興味のあるものを1つ選んでもらう。

生徒から挙げた疑問点1つにつき1枚のテキストふせんを教員側で用意し、授業支援機能で送信する。生徒には新しいデジタルノートを作らせ、受信したテキストふせんをそこに配置し、調べた回答を書くものとして利用してもらう。

Step4

【情報収集】

step3で学んだ疑問の中から1つを選び、その疑問について情報収集して内容をまとめよう。

〈注意〉

- 「EX-word機能」は使用可 → ふせんに残すこと
- Web検索も可 → リンクふせんを活用すること

個別に情報収集

自分の選んだ疑問に関して、Web 検索や EX-word 機能などを用いて情報収集させる。代表的な疑問としては、

- ・誰（どこ）が考え出したのか。
- ・始められた背景や目的。
- ・どんな人が利用しているか。
- ・どれくらいの人が利用しているか。

などが想定されるが、効果的な問いが浮かばない生徒にはこのタイミングでサポートしてやるとよい。

収集した情報のまとめは、step3 で作成した新規デジタルノート上で行わせる。その際、Web サイトの URL を貼り付けたリンクふせんや EX-word ふせんなどを、デジタルノート上に整理して配置させる。この後に行う簡易的な発表を見据え、根拠から解答までが論理的になるよう、スライドショー機能で繋ぐ順番に留意させる。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step5

【発表】

- 本日の発表では、疑問に対しての明確な答えが出ていなくともよい。
→ 途中経過の報告 情報収集の中で困っていること などOK

- 発表を聞く側は、自分がまとめる作業を行う上で学びになることや、困っている生徒へのアドバイスになることなどをメモしながら聞くこと。
→ 共有し合って、お互いの学習をサポート!

簡易的な発表

収集し、整理した情報をもとに、分かったことや考えたことなどを発表してもらう。この段階では、設定した問いに対する明確な答えを出せていなくてもよいものとする。その場合は、情報収集の中で困っていることや、うまくいったことなどを語ってもらうとよい。

聞く側には随時メモを取らせるなどして、自身が情報収集やまとめをする上で学べることを記録させたり、うまくいっていない生徒へのアドバイスをしてもらったりする。

発表には電子黒板やプロジェクターを利用し、スライドショー機能や手描き機能などを活用するよう促す。うまくいっていない生徒へのアドバイスに関しては、口頭だけで伝えきれなければ、リンクふせんに共有し合ってもらうなど、サポートし過ぎにならない程度に情報共有させるのもよい。

また、生徒のデジタルノート URL を回収し、フィードバックや評価に役立てる。

step6

【宿題】

- 次の2つの要素を盛り込んだ「新聞の社説」風の文章を書いてくこと。
① マイクロクレジット（ファイナンス）とは何か
② 自分が設定した問いと、それに対する回答にあたる内容

- ※「新聞の社説」がどのような文章であるかわからない場合には、授業後に申し出ること。例をいくつかお見せします。

宿題

本日の授業内容を踏まえ、

- ・マイクロクレジット（ファイナンス）とは何か。
- ・自分が設定した問いと、それに対する回答にあたる内容。

の2点を盛り込んで、新聞の社説風の文章を書いてもらうことを宿題とする（社会問題について問いを立て、取材し、それらを記事という形で報道して完結するという流れを、探究学習を通じて追体験させるといふねらいから、社説風とする）。

社説がどのような文章か分からない生徒が多い場合には、例となるものを配布するとよい。

文章はテキストふせんに書いてもらい、次回授業時までに提出するよう促す。

次回授業では、回収した文章を一覧表示画面から電子黒板やプロジェクターで1点ずつ投影し、教員が講評を加えたり、最も良いと思われる文章に投票させたりと、出来具合やクラスの状況に応じて用途を変えるとよい。

step7

【参考課題】

- 今回の授業内容を踏まえ、「仮に自分がグラミン銀行から少額の融資を受ける側とした場合、どのような事業を起こすか。また、その事業によって誰（何）に貢献したいか。」について考えてくる。
→ 「何ができるか」よりも「何をやりたいか」という視点で考え始めよう！

参考・補足

今回の授業内容を踏まえ、「仮に自分がグラミン銀行からの少額の融資を受けるとした場合、どんな事業を起こすか、そしてその事業によって誰（何）に貢献したいか」を考えるという課題を付与する。これを考える際、「何ができるか」よりも「何をやりたいか」という視点で考え始め、そこから連鎖的に問いを立てて考えるよう促す。

取り組ませる場合は、step4 と同様にデジタルノートにまとめさせて URL を回収し、フィードバックするとよい。